

事例21:「1年生みたいにやってみたい」 5歳児(1月)

幼児期の終わりまでに育ってほしい姿(10の姿)との関連

②自立心③協同性④道徳性・規範意識の芽生え
⑥思考力の芽生え⑨言葉による伝え合い

これまでの姿

これまででは、朝や帰りの集まりの時間に、主に保育者が声をかけていたが、ある時、子どもたちだけで輪になって集まりだした。1年生との交流会に参加したときに1年生が会を進めていた姿にあこがれ、自分達で帰りの集まりをやってみようとする姿が見られ始めた。

1年生みたいにするにはどうすればいいか、意見を出し合うこともあったが、意見のある子ばかりが話すことが多かった。

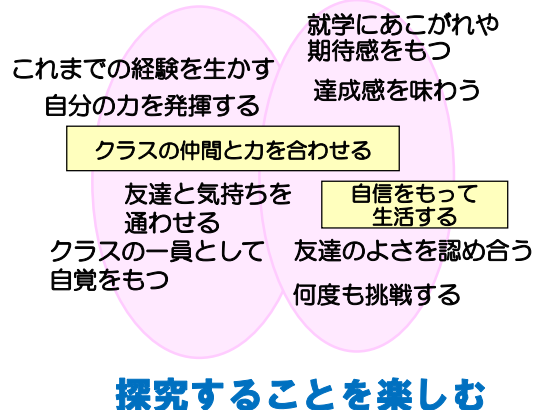
◎ねらい○内容

◎自分達の生活に見通しをもち、楽しみながら自分達で生活を進めていき、充実感を味わう。

◎互いの良さを認め合いながら、友達と過ごす喜びを感じる。

- ・自分達で集まりの時間をつくろうとする。
- ・自分の思いを伝えたり、友達の思いを聞いたりする。

架け橋期のカリキュラムとの関連
(遊びの中で経験させたいプロセス)



生活の様子(番号:10の姿との関連)

帰りの時間になり、A児が「帰りの集まりの時間になったから、座ろう」と言うと、子ども達がいつものように前を向いて座りだす。するとA児が「サークルタイムで話そう。丸くなって座って」と声をかける。B児も②「みんなの顔が見れるからそうしよう」と言う。2人の声掛けで、子ども達は輪になって座りなおす。保育者も一緒に座り、今日の振り返りをしようとする。C児が②「先生、今日はぼくたちだけでやってみたい。先生聞きよってや」と言う。子ども達も「それがいい」「やってみよう」と言い出す。C児が「今日の当番は僕だから、前で言っている?」と言うと、みんなが「いいよ」と返す。C児は「今日は何をしましたか?」「何が楽しかったですか?」と皆の前に立って会を進めていく。いつものように進んでいったが、A児が③⑨「C君ばかり話してる。1年生は順番にやりよったで」と言う。C児は「そうやったね。じゃあどうする?」とみんなに問いかけると、次々に手が挙がったので、D児が「これじゃあ決まらんきジャンケンで決めたら」と意見を出す。C児が「ジャンケンでいいですか」と皆に問うと、「いいね」「それがいい」と声があがり、C児が「じゃあ、ジャンケンで決まり」と言うと、皆が拍手をした。

★環境の構成 ○保育者の関わり

★皆の顔が見えるように輪になって集まり、互いの顔を見ながら意見を聴けたり、思ったことが言いやすかったりするような雰囲気をつくっていく

○子ども達同士で話を進めていく姿を認めていく

○必要なときに言葉を足したり、思いを引き出していったりして、子どもの言葉を広げていく

○子どもが思いを共有し、共通の目的に向かってやり遂げ、満足感をもつことができるようにしていく

「1年生みたいにやってみよう」活動のプロセス

遊びや学びのプロセス(10の姿)

順番に話をしよう

★互いに認め合える雰囲気をつくる。

○帰りの集まりで司会をやってみようという気持ちを受け止め、任せてみる。

司会を決める

○子ども達同士で話を進めていく姿を認めていく。

サークルタイムを子ども達で始める

○交流会で楽しかったことなどを話す機会をもつ

小学校との交流会(一日入学)へ行く

②自立心

自分でできることを考えたり、自分でしなければならないことに気付いたりする。



④道徳性・規範意識の芽生え

友達の気持ちに共感したり友達の意見から自分の行動を振り返ったりしながら、友達の気持ちを考え行動する。



⑨言葉による伝え合い

自分の考えを言葉にして伝え、友達の話を理解し、よりよい方法を見付けようと話し合い、遊びを進めている。

③協同性

考えを伝え合う中で、お互いの良さに気付いたり、認め合ったりする。

小学校教員の気付き

◆子どもに「任せる」ことの大切さを改めて感じます。自分達でやってみるからこそ、その気付きが新しい学びを生み、子ども達の経験となって蓄積されていくのだと思いました。改めて主体的な活動について考えてみたいと思います。

◆1年生との交流の積み重ねによって、1年生への憧れの気持ちが芽生え、“こうなりたい”“こうしてみよう”という気持ちが子ども自身の行動や子ども同士の関わりに影響していることを感じました。

保護者への発信ポイント

◆交流会の1年生の姿に憧れ、自分達で集まりの時間をしようとしています。自分の思いを伝え、周りからの意見を聞きながら折り合いをつけています。こうした体験を通して子どもは次第に自分の気持ちを調整することの必要性を理解していきます。1年生の姿をお手本にしたことで、きまりの必要性に気付き、その積み重ねによって規範意識の芽生えを培っています。

◆子ども達が就学に憧れや期待、不安をもつように、保護者も同じ思いをもっています。この時期の子ども達の姿が、小学校にどのようにつながるのかを子どもの具体的な姿と一緒に伝えることで、保護者は安心できます。

